FUJIFILM
Value from Innovation

JCLS

日本医療検査科学会第57回大会　ランチョンセミナー 5

地域医療を支え、災害医療に挑む！

ー命をつなぐ臨床検査への備えー

日時　2025年 10月3日（金）12：00～12：50

会場　第6会場（パシフィコ横浜 会議センター 3階 303）

座長　坂本 秀生 先生　神戸常盤大学 保健科学部 医療検査学科 学科長

演者　奥沢 悦子 先生　八戸市立市民病院 救命救急センター 参事

当セミナーは整理券制です。

＜事前予約＞　予約期間：2025年9月1日(月)～9月12日(金)17:00

＜当日受付＞　配布場所：パシフィコ横浜 会議センター 2F参加受付付近

配布時間：2025年10月3日(金)8:15～10:00

※整理券はセミナー開始と同時に無効となります。

日本医療検査科学会第57回大会
参加登録

共催：日本医療検査科学会第57回大会／富士フイルム株式会社／富士フイルムメディカル株式会社

テーマ　地域医療を支え、災害医療に挑む！

－命をつなぐ臨床検査への備え－

八戸市立市民病院 救命救急センター 参事
奥沢 悦子 先生

「みなさん落ち着いてください！手の空いている人は患者さんの人工呼吸器を外して、点滴ラインをクリップ（医療用）で固定、輸液を体の上に置いてください！」これは東日本大震災(2011年3月11日)発生直後の八戸市立市民病院救急外来で飛び交った救急医からの「職員と患者の命を守る」指示である。臨床検査業務における災害発生時への備えは、どこまで対応できているのだろうか。

内閣府の新被害想定（2025年3月）によると、南海トラフ大地震による死者は最大で29万8千人、初試算された災害関連死は最大で5万2千人にのぼるとされている。災害種別にもよるが、発災時の季節・天候や時間帯によって参集可能な職員数に大きな差が生じる。また、職員は「アクションカード」を使用し、実践すべき業務を遂行するが、当然自身の命を守る行動が最優先であるため、平時の様なパフォーマンスを発揮することは難しい。このように、災害時において臨床検査業務に支障をきたす要因にはマンパワーの不足、それに加え停電によるシステム障害や上下水道の不具合による検査機器使用不可、検査試薬供給不足などがある。

医療機関ではEMIS（広域災害・救急医療情報システム）の緊急時入力により「要支援」が全国に発信される。これにより、本来速やかに支援が展開されるが、令和６年能登半島地震（2024年1月1日）では地盤隆起や道路寸断・大雪により迅速な支援は困難であった。また職員の退職も相次ぎ、人的資源も厳しい状況であった。加えて上下水道の復旧には時間を要し、水の濁りや貯水槽の破損などで「水」が使えない状況が続いた。災害時における医療体制は、たとえ乏しくとも途絶えることなく継続する事が大切であり、被災地側（受援）として国難を乗り越えるための備えは必要である。本ランチョンセミナーでは、このような難局に立ち向かうため、私たち臨床検査技師が日頃から何を備え、何に注視すべきなのか等、情報提供の場としたい。